

グリーンパーク 相談所だより

17号

2007年（平成19年）7月22日発行

キョウチクトウの花の不思議

特殊な花器構造により、結実しにくい。めしべに見えるのは、五本のおしべが合着した葯の飾りで、その内側に真のめしべと花粉があり昆虫が葯をこじあげないと受精しにくい。

キョウチクトウのもう一つの不思議

葉は三輪生し、厚い皮質の線状被針形をしている。葉の裏の気孔が他の植物と違って、へこんだ穴の内側にはびっしりと毛が生えている。その毛がフィルターの役目となり、排気ガスなど有害物質を押し出す仕組みになっている。

キョウチクトウは明るい花で、陽地を好み猛暑に咲く夏を代表する花。大気汚染にも強く、道路沿いの生け垣・緩衝樹として多く植えられ、樹勢が強く他の植物が育たないところにもよく育つ。

キョウチクトウは古い時代に登場する。古代インドでは麻酔的な効果知られている。仏典では歌羅毘羅樹（からびらじゆ）の名で登場し、悪人にその花輪をかぶせたとある。一方、セイヨウキョウチクトウはパレスチナで古くから見られ、聖書の集いの書の「バラ」はセイヨウキョウチクトウと言われている。

乾燥や公害に強いが、 有害植物としてのキョウチクトウ

キョウチクトウ科
キョウチクトウ属
常緑小高木
夾竹桃



美しい花を咲かせる。他には白もある。園芸種ではその他の色も見られる。

枝葉にはオレドリン、アデネリン（強心配糖体）を含む。誤飲すると嘔吐や心臓麻痺などをおこし、死に至ることがある。枝葉を折ると白い液が出てくる。この汁のついた手で目などをこすったりするとピリピリして涙が止まらなくなるので、剪定るときは素手でしないようにする。

過去にキョウチクトウを箸や焼肉の串刺し代わりに使った例が数多くある。西仏戦争（1701～1714）でフランス兵が、古くはアレキサンダー大王、ナポレオンの軍隊、また、日本では西南戦争で官軍の兵士に起こっている。そして、家畜の放牧地ではキョウチクトウを食べて死亡する事故が発生している。

仏典や聖書に登場する夏の花

キョウチクトウ